

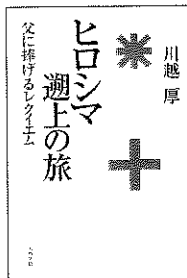


あの日、父のいた「地獄」とは。
被爆二世の医師が父親の足跡
をたどりつづる魂の旅の記録。

長く在宅ホスピス医療に従事して
きた著者は、4代目のクリスチャン。
被爆二世でもある。終活を考える年
代になり、避け続けてきた「ヒロシマ」
に向き合うことを決意、父親の被爆
当時の足跡をたどる旅に出た。道中、
重ねた思索、見いだした使命とは。

丁寧で緻密な取材、医師ならではの
視点による考察により、「原爆」の
実相を伝えるレポートとして読み応え
がある。また、その「地獄」を見たの
は父だったという息子としての語りが、
読者にも自分ごとに引き寄せて考え
る視点を与え、「数」としてではない、
被爆者への理解を深めてくれる。

なぜ父親は生前、「原爆」を語ら
なかったのか。そ
の答えが浮き彫
りになるにつれ、
原爆のもつ筆舌
に尽くしがたい悪
魔性が一層、心
に迫ってきた。



『ヒロシマ遡上の旅 父に捧げるレクイエム』

川越 厚 著／本の泉社
四六判 224頁 2,100円

隔月刊誌「百万人の福音」2025年7・8月号 掲載